

Canon オートズーム 1014 エレクトロニク

使用説明書





※都合により製品の外觀デザインの一部を変更することがあります。

お買いあげありがとうございます。

このカメラは8ミリシリーズのトップにランクされるスーパー8方式の8ミリ撮影機です。レンズはキャノン技術陣の総力を結集して設計したもので、ズーム比10倍にもかかわらずF1.4の明るさは世界最高のもので、その解像力とカラーの再現力は他に類がありません。

巻き戻し機構とシャッター開角機構の組み合わせによって可能となったオーバーラップ撮影をはじめ、フェーディング、マクロ撮影、1コマに同調するフラッシュ回路の組み合わせのほか、インターバルタイマーE、セルフタイマーEなど、アクセサリーの充実により撮影領域を一段と広げたものです。



1 解像力にすぐれた10倍コンパクトズーム

10倍という高倍率ズームレンズでありながらフィルター径58ミリと非常にコンパクトです。構成レンズ枚数の半数に新種ガラスを採用し、高解像力を追求しました。しかもレンズはF1.4という明るさです。

また、内面反射防止には十分な注意を払い、スーパースペクトラコーティングを施し、ゴースト、フレアーを完全に除去しました。

2 測光精度の高いTTLサーボEE

レンズを通過した光を測るTTL測光を採用し、CdS受光体を絞りの後方、焦点面に最も近い位置に置き測光精度を一段と高めました。絞りはサーボメーターにより適正にコントロールするEE方式で、しかも従来の方式に比べ強力なためF32の小絞りも可能になりました。

また、温度変化や電圧変化に強いオールドランジスタブリッジ回路を採用しているため、54コマというハイスピードにおいても常に安定した画面が得られます。

3 新機構によるオーバーラップ撮影

簡単な操作によりオーバーラップ、フェードイン、フェードアウトなど高級技法が自動的に、しかも正確にでき、幅広い映画作りが楽しめます。

4 明るく正確な情報ファインダー

ファインダーを明るく見易くするため瞳径を大きくし、暗い場所でもピントの合わせ易いスプリットイメージを採用しました。しかも距離計は好みに応じてマイクロプリズムとの交換も可能です。

また、露出警告マーク、絞り指針、絞り目盛、フィルム完了予告ランプ、シャッター開角量表示、フィルム給送ランプなどすべての撮影情報が一目でわかります。

5 高速54コマインスタントスローモーション撮影

インスタントスローモーションスイッチを押し下げるだけの操作で通常スピードから急激なスローモーション撮影ができます。

撮影中にいつでもスローモーション撮影が行なえるため非常に便利です。

6 接写を手軽にしたマクロ撮影機構

いままでの接写は各種アクセサリーと、高度な撮影テクニックを必要としました。

キヤノンオートズーム1014エレクトロニクはズームリングの簡単な切り換えで手軽に近接撮影が可能となり映画表現にバラエティをもたせることができます。

7 フラッシュ同調撮影

1コマにストロボ同調接点を設けてあり、1コマ撮影でタイトルやアニメーションの場合に便利に使用できます。

8 撮影領域を拡大したリモコンアクセサリー類

このカメラはマグネットリリース機構のためリモートコントロール用アクセサリーが使用できます。

撮影者自身も画面に入ることのできるセルフタイマー、ある一定の時間間隔において撮影をするインターバルタイマーE、タイムラプスプログラマー(発売予定)などがより一層撮影領域を拡げます。

※最初はフィルムを装填しないで使用書に従って操作手順を覚えてください。

キヤノン1014エレクトロニクの性能

型 式：コダパックカートリッジによる簡易装填スーパー8方式の8ミリシネカメラ

画面サイズ：5.8×4.2mm スーパー8サイズ(映写画面) 5.4×4mm

レンズ：焦点距離7~70mm(ズーム比10倍) 明るさF1.4 13群18枚構成(新種ガラス9枚含む) スーパースペクトラコーティング フィルターネジ径58mm レンズキャップ60mm

ファインダー：一眼レフ式スプリットイメージ距離計 ファインダー情報(メーター指針 絞り目盛 露出警告マーク シャッター開角度表示 フィルム完了予告ランプ フィルム給送ランプ) 視度調節 -4~+2 ジョブター アイピースシャッター組み込み アイカップ付き

EE機構：フィルム感度 コマスピードに連動する自動絞り機構 TTL測光方式のサーボEE 受光素子CdS

EE測光範囲：A S A 400 F1.4 18コマ ~ A S A 16 F32 スローモーション(54コマ)および1コマに連動

使用フィルム感度：

人工光用 ASA						
25	40	64	100	160	250	400
昼工光用 ASA						
16	25	40	64	100	160	250

感度セット：カートリッジによる自動セット

色温度転換用CCAフィルター：人工光フィルムを昼光下で使用するためのカラーコンバージョンA(CCA) フィルター内蔵 外部からCCAフィルター切り換えアダプターまたは、ライティングユニットの取り付けにより解除可能、デイルイトフィルムカートリッジによる自動解除

コマスピード：18 24 1コマおよびインスタントスローモーション(約54コマ)

シャッター開角：150°~0°まで連続可変 全閉による自動フェード撮影可能
オーバーラップ：自動巻き戻し機構とオートフェーダー機構による完全なオーバーラップ 重なり量は50コマ前後

絞りの手動調節：EE-手動絞り切り換えリングによりF1.4~F32の間で可能

駆動方式：高性能マイクロモーターによる電動フィルム送り巻き戻し及び電動ズーミング

駆動電源：単三乾電池6本使用 グリップ及びボディ内に収納 フィルム駆動 電動ズーミング 露出計兼用
電動ズーミング：2速切り換え可能ズーミング H約5秒 L約7秒

手動ズーミング：ズーミング速度切り換えスイッチM位置でズーミングリングによる回転角120°

撮影本数：常温で約10本 1コマ撮影は新

電池使用で1.5本以上

フィルムカウンター：カートリッジ着脱に連動する自動復帰順算式

フレームカウンター：1回転72コマ(1ft)1目盛2コマ調節可能指標付き

電池の点検：チェックボタンによる読み取り式

グリップ：折りたたみ式電池収納室兼用

ソケット：リモコン・1コマ用 フラッシュシンクロ用

リモートコントロール：リモートスイッチ3および60により可能

切り換えスイッチ：OFF R RL 安全スイッチ兼用

安全装置：EE警告 安全スイッチ シャッター開角量表示窓 フィルム送り確認窓その他撮影のミス防止

マクロ撮影機構：ズーミングリング切り換えによる近接撮影機構 距離目盛を∞にセットしたときフィルム位置マークから189mmまで近接可能 画界は30.5×22.8mm

時間制御間欠撮影：インターバルタイマーE、タイムラプスプログラマーの使用により休止時間をおいた断続撮影可能

セルフタイマー：セルフタイマーE取り付けにより約10秒後に約10秒間撮影

アクセサリ：レンズキャップ60 CCAフィルター切り換えアダプターおよびソケットカバー ラバーフードS60 58mmフィルター 58mmクローズア

ップレンズ450 C-8-2 240C-8
リモートスイッチ60 リモートスイッチ3 エクステンションコードE1000 セルフタイマーE インターバルタイマーE、タイムラプスプログラマー(予定) チェストポッド

※アクセサリは商品構成ではありません。

大きさ・重量

277×121×93.5mm・1990g(含、電池)

目次

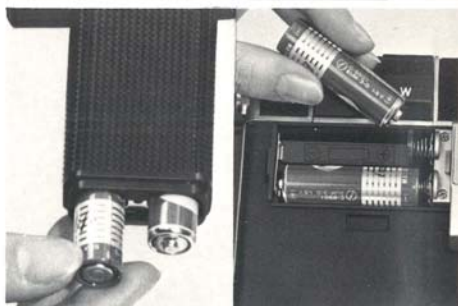
撮影の準備	8
撮影の手順	11
カメラの準備	12
EE撮影の準備	15
撮影-1	18
撮影-2	22
シャッター開角機構	23
シャッター開角調節リングの使い方	24
特殊撮影	26
シャッターリリースの方法	36
CCAフィルターの切り換え人工光撮影	39
マクロ撮影	40
ストロボ撮影	42
時間制御間欠撮影	43
画面効果を高める撮影テクニック	44
アクセサリの使い方	46
ご注意	49

撮影の準備

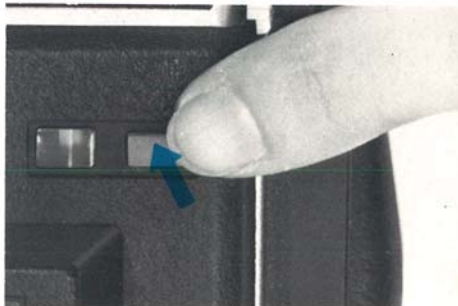
1 グリップをおこす



2 電池を入れる 単三 6本

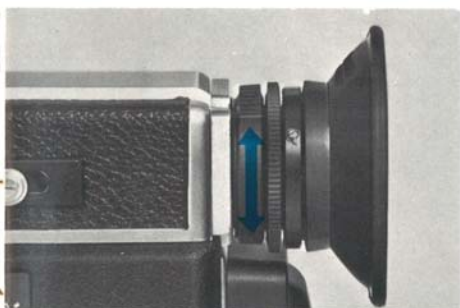


3 バッテリー電圧をチェックする



4 キャップをはずす

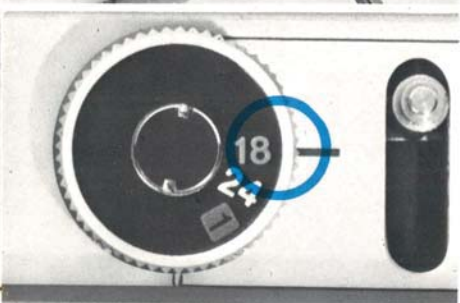




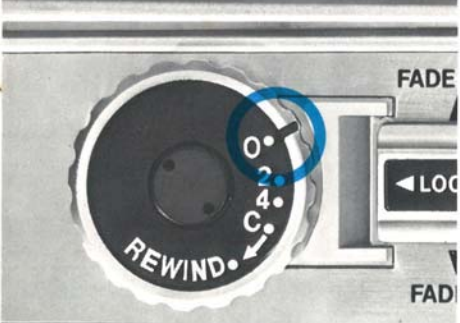
- 5 視度調節をする
スプリットイメージの線で合わせる



- 6 フィルムカートリッジをつめる

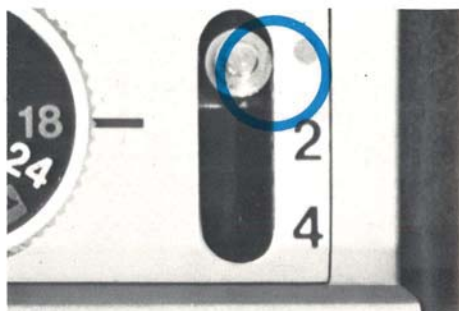


- 7 コマスピードダイヤルを18コマに合わせる

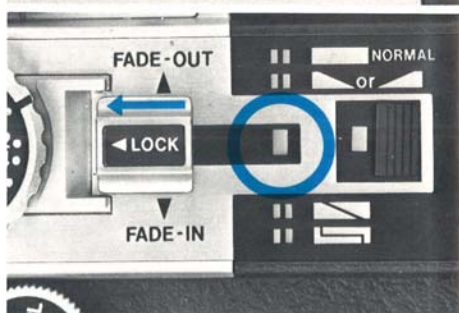


- 8 シャッター開角調節リングを0に合わせる

9 露出補正つまみを●印に合わせる



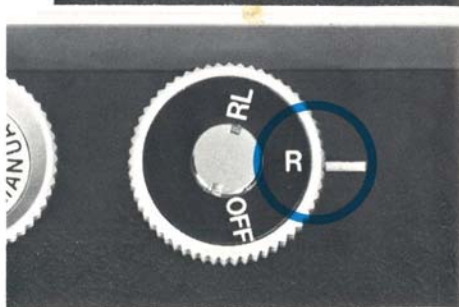
10 フェーディング切り換えノブが(◀)印方向にあることを確認する (フェーディング切り換え表示窓が橙色)



11 EE—手動絞り切り換えリングが押し込まれていることを確認する

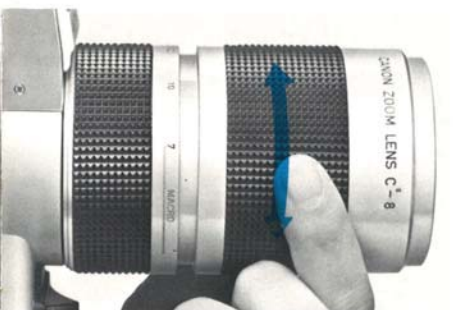


12 切り換えスイッチをRに合わせる



撮影の手順

13 ファインダーを覗き最大倍率70mmでピント合わせをする



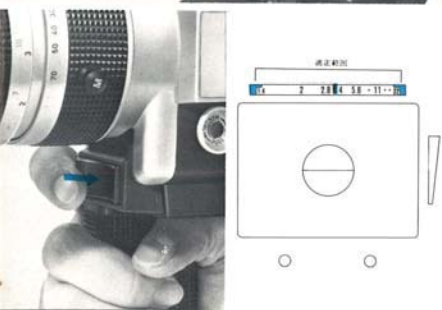
ピントが合っている



ピントが合っていない



14 ズーミングリングを回して画面サイズと構図を決め、シャッターレバーを軽く押してメーター指針が適正露出範囲にあることを確認する



15 シャッターレバーを引いて撮影する

16 撮影中に必要に応じてズーミングする



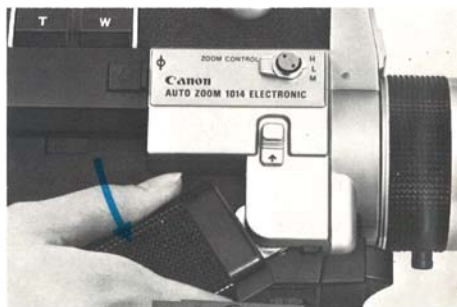
17 撮影完了後フィルムを取り出す

カメラの準備

1 グリップの扱い

グリップは折りたたみ式で電池室を兼ねています。グリップはグリップストッパーがカチッというまで完全に引きおこしてください。

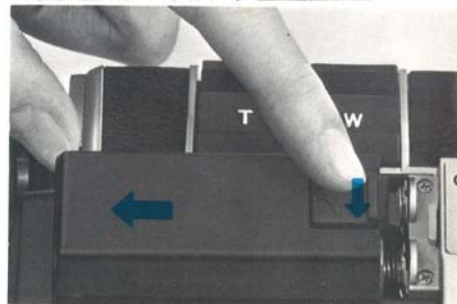
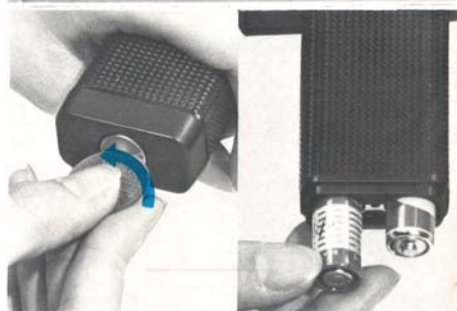
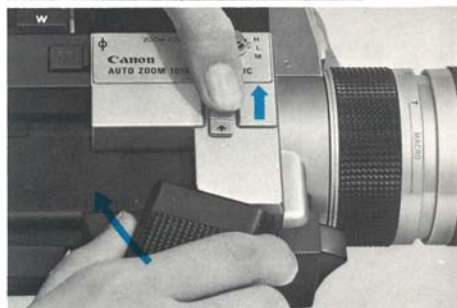
折りたたむときは、グリップを軽く前方に押しながらグリップストッパーを上を押し上げ、グリップを戻してください。



2 電池のつめ方

電源には単三乾電池6本を使用し、フィルム送り、電動ズーム、露出計に共用し、グリップに4本、ボディ側に2本入れます。

- 電池室止め蓋を左回しにゆるめてははずします。グリップ側面の装填図に従って⊕⊖を間違えないように入れて蓋をしてネジをしめます。
- カメラ側面の電池室カバーをはずします。カバーロックを押しつけながら矢印方向に引きます。電池室内の装填図に従って電池を入れ、電池室カバーを逆方向にパチンと音がするまで完全に押しつけます。



※撮影可能本数

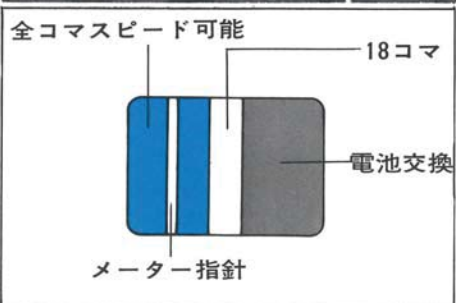
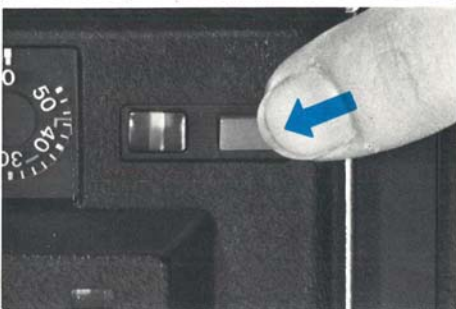
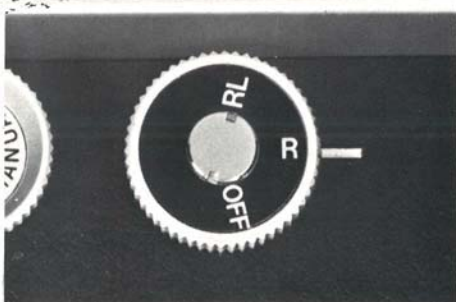
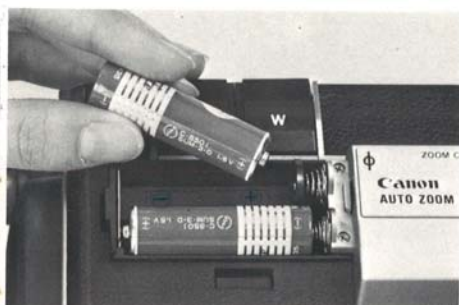
マンガン……………10本以上

(電池性能はバラツキがあるため撮影本数も異なります)

※長期間カメラを使用しないときは電池を抜きとって湿気のない場所に保管してください。

※撮影時以外には切り換えスイッチをOFFにして電池消耗を防いでください。

※電池の交換は6本全部を同時に新しいものと交換してください。また同一名柄を選んでください。



3 電源電圧のチェック

電池の電圧がなくなってくると適正撮影ができなくなりますから電圧をチェックする必要があります。

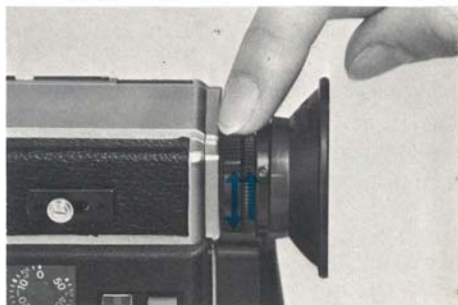
- カメラの切り換えスイッチをRにセットし、側面の電池チェックボタンを押してチェッカー窓の指針の位置で電圧の良否を確認してください。
- 指針が青範囲にあれば電圧が十分で、全コマスピード撮影可能です。白範囲にあれば18コマだけが撮影OKです。指針が赤範囲にあるときは、電池を交換してください。そのさい、フィルムが駆動する状態でも電池は交換してください。もし、交換しないで撮影を続けると適正露出は得られません。

4 視度調節

カメラを明るい方に向け、ファインダーを覗きながら、視度調節リングを回し、中央の円のスプリットイメージの線が一番ハッキリ見えるところに合わせ、締めつけネジを回し固定します。

※視度調節をしないで撮影をするとピンボケ画面になります。ご注意ください。

※距離計交換希望の方はキヤノンサービスステーションにおいて実費でマイクロプリズム距離計と交換します。



5 フィルムのつめ方

- 背蓋開放ボタンを指で押して蓋をあけます。
- フィルムカートリッジのラベルをフィルムタイプ確認窓側にしてさしこみます。
- 背蓋はパチンと音がするまで押しつけて閉じます。このカメラはフィルムカートリッジを入れるだけで自動的にフィルム感度がセットされ、次の感度のフィルムカートリッジが使用できます。

人工光用 ASA 25 40 64 100 160 250 400
昼光用 ASA 16 25 40 64 100 160 250

- フィルムカウンター

右側のフィルムカウンターは撮影量に応じて回転します。1目盛は2ftです。目盛板はフィルムを抜きとると自動的に0位置に戻ります。

※フィルムカウンターは、フィルムカートリッジが入っていないときは回転しません。

- フレームカウンター

1目盛りはフィルム2コマに相当し、1回転72コマ(1ft)です。中央のフレームカウンター指標セットつまみを回して0位置に合わせると撮影量をコマ数単位で確認できます。



EE撮影の準備

1 切りかえスイッチをRに回します

すべての回路がつながり、シャッターが作動する状態になります。切り換えスイッチをOFFにすると電源スイッチが切れシャッターもメーターも作動しません。

2 EE一手動絞り切り換えリングが押し込まれていることを確認します。

※EE一手動絞り切り換えリングが引き出されている状態で撮影すると、EEがはずれ適正露出が得られません。押し込んでください。

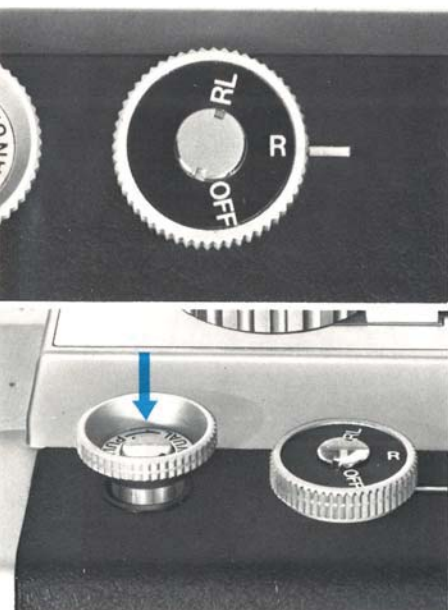
3 コマスピードをセットします

スーパー8は18コマが標準コマスピードです。映写したとき動きが最も自然に見えます。

- コマスピードダイヤルを回して18の数字と指標を完全に合わせます。
- 24コマで撮影すると標準18コマで撮影したフィルムにくらべ映写した場合 1.3倍ほど動きがゆるやかになります。24コマは次のようなときに使用してください。
- 標準トッキーフィルムをつくるとき
- 動きを和らげるとき
- ズームングをのばすとき
- パンニングのブレ防止

このカメラはスローモーション撮影機構を組み込んでいます。動物、スポーツなどのような動きの速いものの動作分析などに利用すると便利です。

- インスタントスローモーションは、約54コマで撮影が行なわれます。撮影しながらインスタントスローモーションスイッチを押し下げると急激なスローモーション撮影をすることができます。



※カットの始めからスローモーション撮影を行なうときは、最初にインスタントスローモーションスイッチを押し下げしてからシャッターレバーを引いてください。撮影を中止する場合はシャッターレバーをはなしてからインスタントスローモーションスイッチをはなしてください。フィルムの無駄写しをふせぎます。

※インスタントスローモーションスイッチを押し下げている間だけスローモーション撮影が行なわれます。

撮影途中で指を離したり、ゆるめたりしないようにしてください。スイッチはすみやかに押し下げてください。ゆっくり押すと露出とコマスピードの関係が正常に行なわれず、一部露出オーバーになります。

※コマスピードが1コマにセットしてあるときは、インスタントスローモーションスイッチを下げても意味がありません。誤って操作をしても故障の原因にはなりません、露出がオーバーになります。

●インスタントスローモーション撮影は通常映写にくらべ動きが3倍ゆるやかになり、次のようなときにもご利用ください。

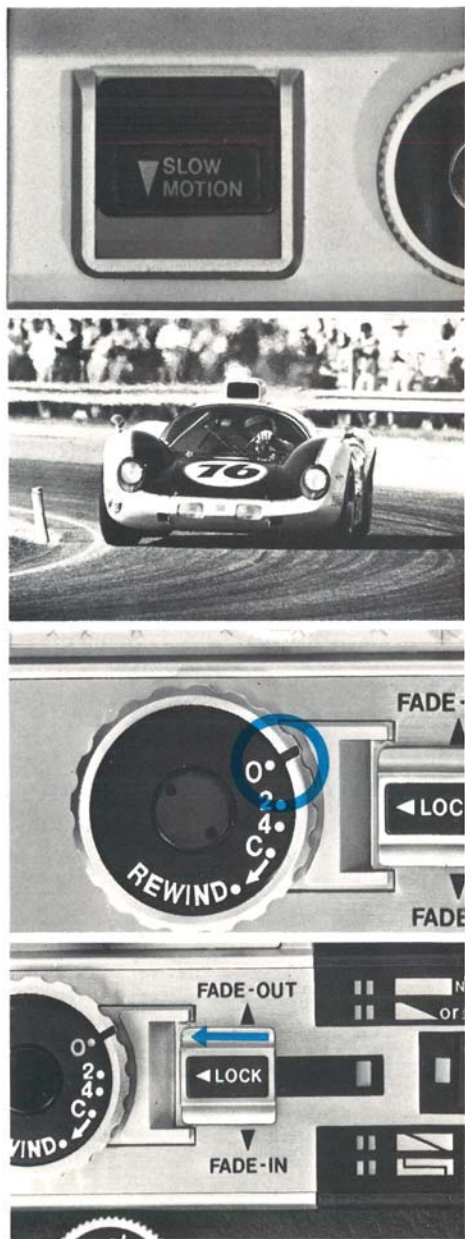
- 移動撮影やパンニングのブレ防止
- 動きを和らげる場合

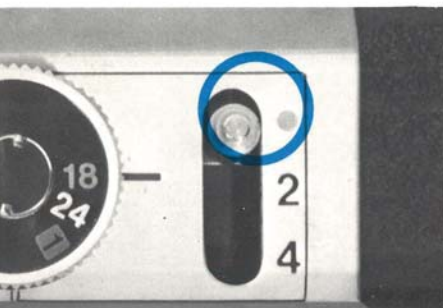
※1コマ撮影については38ページ参照

4 シャッター開角調節リング指標がO (OPEN) にセットされていることを確認します。

※シャッター開角が(O)位置になっていないと適正露出は得られません。

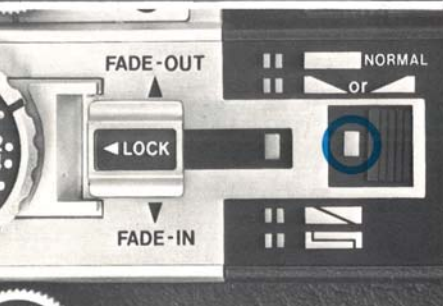
●シャッター開角調節リングがO位置にない場合は、フェーディング切り換え表示窓を青色にし、調節リングをO位置にセットし、ノブを押してロックします。ロックした状態ではフェーディング切り換え表示窓が橙色になります。





5 シャッター開角露出補正つまみと露出補正目盛を合わせます。

※普通のE E撮影の場合露出補正つまみを●印にセットしないと適正露出は得られません。



6 フィルム巻き戻し表示窓が橙色になっていることを確認

青色がセットされている場合は巻き戻し解除ボタンを押してから撮影をしてください。橙色を表示したのと同じ役目をはたします。レバーを引いて撮影を続けると自動的にフィルム巻き戻し表示窓は橙色に切り換わります。

※フィルム巻き戻し解除ボタンの項参照 (27ページ)



7 フィルム送りの確認

フィルム送り確認窓の紅白のシマ模様を見ながらシャッターレバーを引きます。シマ模様がスムーズに動けばフィルムが正常に送られています。また、ファインダー内でフィルム給送ランプが点滅してフィルム送りが正常に行なわれていることが確認できます。点滅しない場合はフィルムを取り出し、入れなおしてください。



撮影— 1

1 構え方

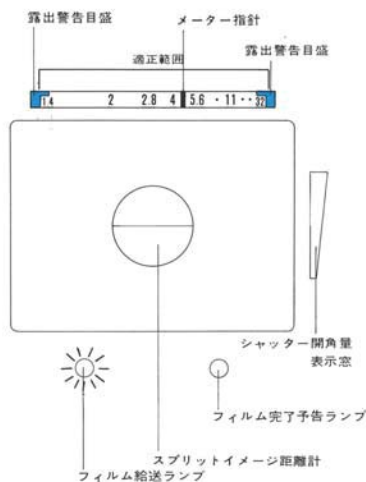
右手をリストストラップの中に通し、グリップを握ります。人さし指はシャッターレバーにかけます。左手はピント合わせとズーミングを行ないます。

※撮影中にカメラの安定が不十分だと映写画面が躍って非常に見にくくなります。特に望遠側での撮影やズーミング撮影ではカメラを安定させてください。大型三脚に取り付け、リモートスイッチ60、または、リモートスイッチ3を使えば完璧です。手持ち撮影では右ひじを体につけてしっかりホールドしてください。



2 ファインダーを覗きます

ファインダーには、絞り目盛、メーター指針、露出警告マーク、スプリットイメージ距離計、シャッター開角量表示窓、フィルム完了予告ランプ、フィルム給送ランプが組み込まれ、撮影に必要な情報がすべてわかるようになっています。





3 ズーミング

ファインダーを覗き、ズーミングリングを回すかズームリングスイッチを押すと像の倍率がかわります。これによって被写体のトリミングを行なったり、連続的に被写体の大きさをかえるズーム効果表現したりします。

1 電動ズーミング

ズーミングスイッチのTは望遠側へ、Wは広角側へ倍率がかわります。撮影中に押せばスムーズにズーム効果を取り入れることができます。



M

ズーミング速度は2段に切り換えることができ、カメラ側面のズーミング速度切り換えスイッチをHに合わせると高速(約5秒)、Lに合わせると低速(約7秒)でズーミングが行なわれます。Mは手動ズーミングです。

2 手動ズーミング

急激なズーミング、緩慢なズーミングのようにズーミング速度を変えたいとき、また、被写体の大きさを正確に決めたいときは、手動ズーミングに切り換えてください。



H

L

M

●ズーミング速度切り換えスイッチをMに合わせます。

●ズーミングリングレバーを指で押しつけるような形で持ち、ズーミングリングを回転させます。

※ズーミングレバーを指でつまむとマクロ位置へ不用意に回転することがあります。ご注意ください。

※Mに切り換えしないで手動ズーミングをしても故障はしませんが、スムーズなズーム効果は得られません。

※ファインダー倍率は焦点距離15mmのとき等倍になります。

※手動ズーミングは繰り返し練習して慣れてください。

4 ピント合わせ

ファインダーを覗きフォーカシングリングを回し、中央部のスプリットイメージ距離計の像が上下一つに見えるように調節します。ピント合わせは、焦点距離が長いほど楽で正確にできます。ズーミングしてもピントは変わりませんから望遠の最大倍率(70mm)でピントを合わせてから必要な倍率まで戻してください。

5 構図を決めます

ファインダーは一眼レフ式でパララックスがなく、見た通りに撮影できます。被写体の大きさは撮影距離をかえるか、ズーミングによって決めてください。

6 メーター指針の確認

シャッターレバーを軽く押すと指針が左に大きく振れてから適正值をさします。

メーター指針が警告マークに入っていないければ撮影可能で、静かにシャッターレバーを引くとフィルム駆動が行なわれます。

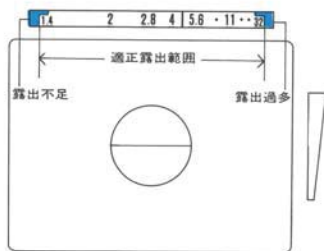
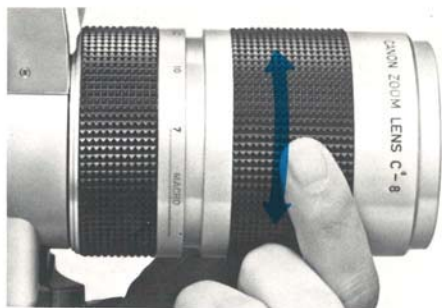
※メーターは切り換えスイッチがOFF位置では作動しません。

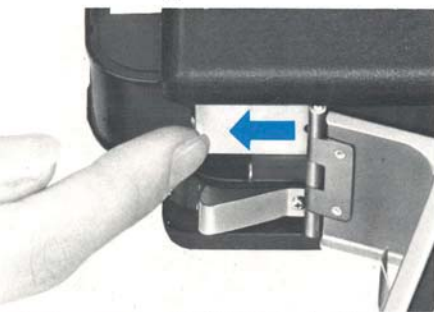
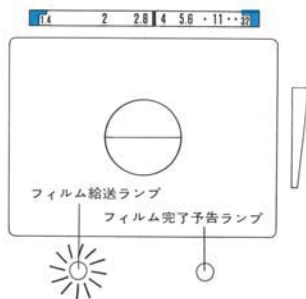
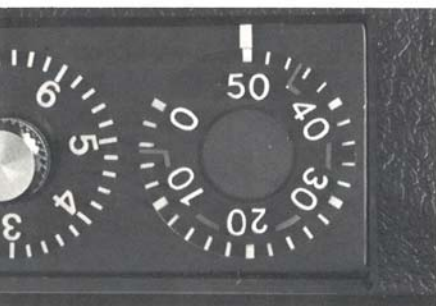
※メーター指針が左端の赤マークにかくれたら露出不足ですから照明を強くし、指針が右端の赤マークにかくれたときは、露出過度の状態ですからシャッター開角、または、NDフィルターを利用して露出を調節してください。

- シャッターを押さない状態では、メーター指針は右側の露出オーバー警告マークに入っています。
- 切り換えスイッチをRLにしてシャッターレバーを引いた状態では常に測光を続け、メーター指針は明るさに応じて変化します。

7 シャッターレバーを引きます

フィルムが送られ、撮影が始まります。





8 撮影完了とフィルムの取り出し

スーパー8フィルムは50ftの片道撮影です。このカメラでは48ft撮影するとファインダー右下にフィルム完了予告ランプが点灯し、あと2ftでフィルムがなくなことを予告します。フィルム完了予告ランプが点灯してから注意しながら50ftまで撮影すると、フィルム給送ランプが点滅しなくなります。撮影終了後は背蓋を開いてフィルムカートリッジを取り出します。

- フィルムカートリッジの取り出しは、フィルム差し込み口の下にあるカートリッジ取り出しレバーを手前に引くと出しやすくなります。

※50ftの撮影が終わりフィルムが送られなくなるとフィルム給送ランプの点滅が止まります。

※撮影済みのフィルムはパーフォレーションに切り欠きがあり、未撮影のフィルムと区別できます。

※撮影済みのフィルムは、お早めに指定の包装をして現像に出してください。

9 フィilm交換

スーパー8はカートリッジ式ですから、撮影の途中でフィルムタイプの異なるカートリッジを交換することができます。そのさい無駄になるフィルムは、カートリッジから出ている部分とその前後を含めて5cm以内です。

※撮影途中でフィルム交換をする場合、撮影済みの最後の部分を感光させないよう少し空送りしてから交換してください。

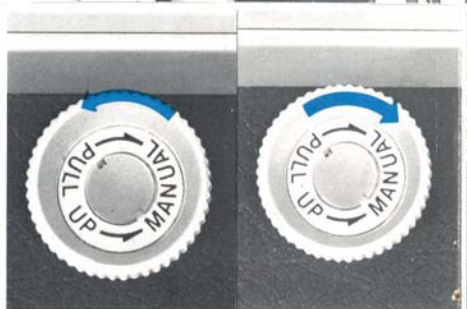
※フィルム完了予告ランプは、フィルムカウンターに連動していますから、途中まで撮影したフィルムを入れた場合は、予告の点灯はしません。給送ランプで確認してください。

撮影— 2

1 手動絞り撮影

E E一手動絞り切り換えリングを引き出すとE E機構が解除され、手動絞りとなります。ファインダー内の指針を見ながらリングを回して好みの絞り値にセットします。逆光、ハイキー、ローキーなどの強調効果にご利用ください。E E一手動切り換えリングは押し込むとふたたびE E撮影ができます。

- E E一手動絞り切り換えリングを引き出すとファインダー内のメーター指針は左端の赤マークに移動します。
- E E一手動絞り切り換えリングを反時計方向に回すと絞りは次第に絞り込まれてゆき逆に回すと絞りは開きます。メーター指針は左右の露出警告マーク内に入ると、それ以上同一方向に回しても動きません。
- 手動絞り撮影で18コマから、スローモーション撮影に切り換える場合は、一度撮影をやめて絞りを開いてからスローモーション撮影を行なってください。開く量は、54コマのインスタントスローモーションのときは約1.5絞り、24コマの場合は約半絞りです。



絞り閉じる

絞り開く

シャッター開角機構

1 シャッター開角機構

8ミリカメラのシャッターはフィルム送りと密接な関係をもっています。

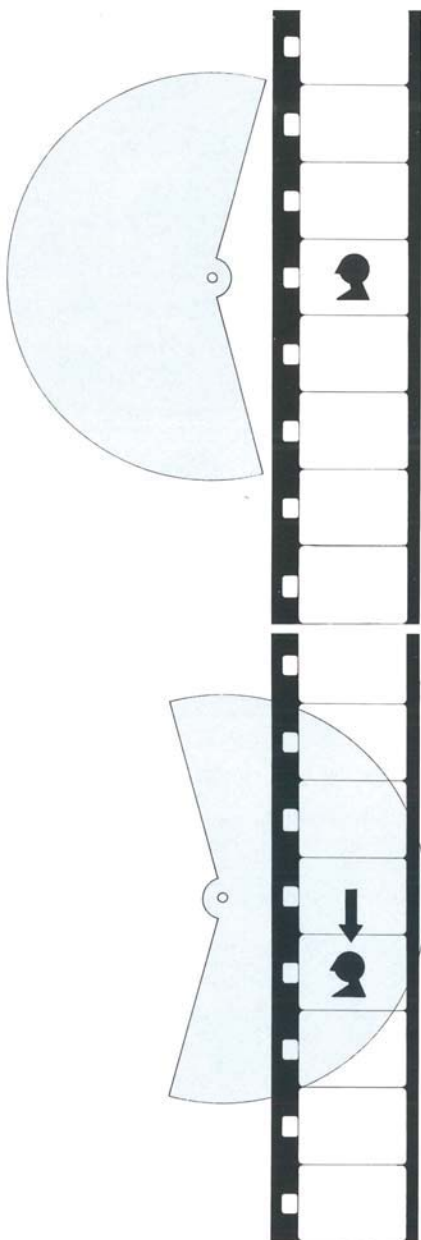
その露出は、ある一定の角度をもつ半円形の羽根の回転によって決まります。羽根の開いた部分がアパーチャの前にきたときフィルムが止まって1コマ露出され、羽根がアパーチャ部をさえぎったときに露出された1コマが送られます。

標準18コマスピードでは、このような動作を1秒間に18回繰り返します。この羽根の開いている角度が大きいほどシャッタースピードは遅く、露出が多くなります。狭いほどシャッタースピードが速く露出が少なくなります。

羽根の開き角度をシャッター開角度といい、一般の8ミリカメラではシャッター開角度は一定で絞りだけで露出を調節します。

キャノンオートズーム1014エレクトロニクでは、露出の組み合わせをシャッター開角と絞りの両方から自由にかえることができ、さらにシャッター開角の連続可変によるフェード機構と巻き戻し機構の組み合わせによってオーバーラップ、二重露出撮影が簡単にできます。

シャッター開角度は 150° ~ 0° まで連続してかえることができ、途中2段階のクリック目盛があります。一般の撮影では、シャッター開角調節リングは0位置にロックしておきます。



2 シャッター開角調節リング

シャッター開角調節リング目盛の2、4の数字はそれぞれシャッター開角度が全開のときの $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ になり、同時に露出が $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ になることをあらわします。0は全開、Cはシャッターが閉じてシャッターレバーを引いても露光は行なわれません。

3 シャッター開角露出補正目盛

シャッター開角度によってフィルム面の露光量が変わります。そのためメーターの補正を露出補正目盛によって調節します。メーターは光の強弱を絞りにつたえ、露出を適正にします。

- 露出補正つまみを動かして露出補正目盛数字に合わせます。シャッター開角調節リング目盛を2にしたときは2に、4にしたときは4の数字につまみを合わせます。

シャッター開角調節リングの使い方

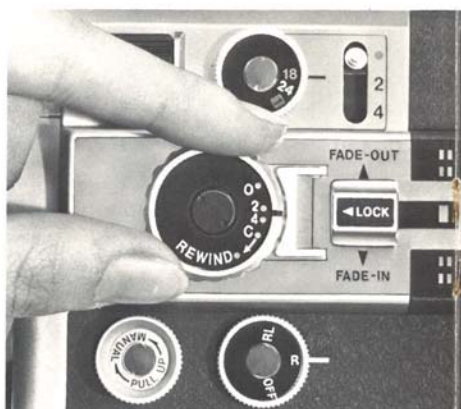
4 露出の調整

- 強烈なスポット光線のあたっている動きの速い舞台撮影などでは、まわりの暗さの影響で被写体が露出オーバーになります。このようなときは、被写体が適正露出になるようにシャッター開角度を小さくします。同時に画像のブレがなくなり、1コマ1コマがシャープに写ります。

※シャッター開角調節リングの2の目盛は $\frac{1}{2}$ に、4は $\frac{1}{4}$ に露出が調節されます。

- 逆光の人物撮影などの場合、人物は露出不足になります。このようなときは露出量を多くして人物を適正露出にします。露出補正目盛を2または4にすることによって適正露出になります。

※この他露出の調整は手動絞りによっても調整できます。





5 画像のブレ防止

- シャッター開角をかえることによって、コマスピードと露出時間の関係は下表のようになります。

コマスピード 開角目盛	18	24	インスタント スローモ ーション (54コマ)
0 (150°)	1/43 秒	1/58 秒	1/129 秒
2 (75°)	1/86 秒	1/115 秒	1/258 秒
4 (37.5°)	1/172 秒	1/230 秒	1/516 秒

表に示したように、同じコマスピードでもシャッター開角度をかえることによってシャッタースピードが変わります。スポーツ写真などのように動きのあるものもシャッター開角度を小さくすることによって、ブレをなくして1コマ1コマをシャープに写すことができます。通常のE E撮影ではシャッター開角調節リング目盛をかえたならば、露出補正目盛も同時にセットします。露出補正目盛のセットを忘れると適正露出が得られません。

特殊撮影

1 撮影技法マーク

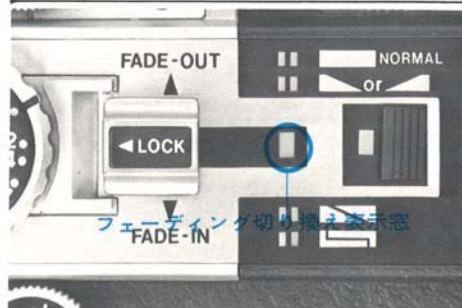
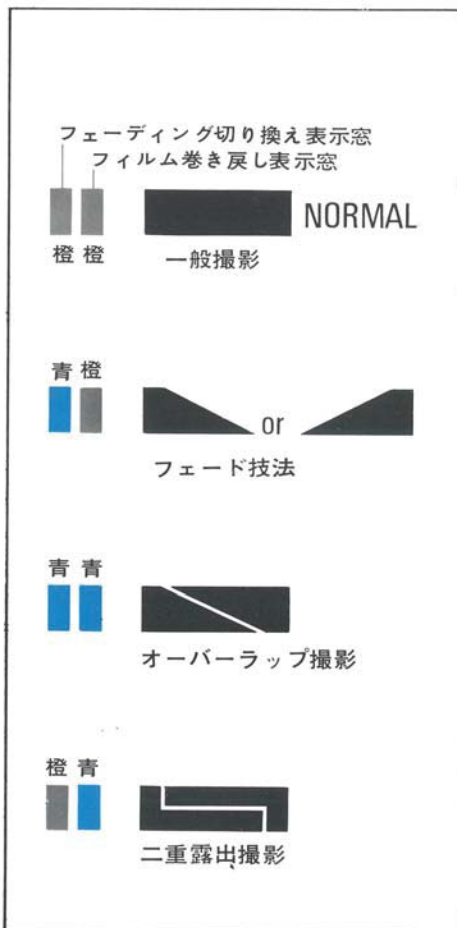
キヤノンオートズーム1014エレクトロニクスはシャッター開角と巻き戻し機構の組み合わせによって一般E E撮影の他にフェード撮影、二重露出などができます。この組み合わせをボディ側面に表示してあります。

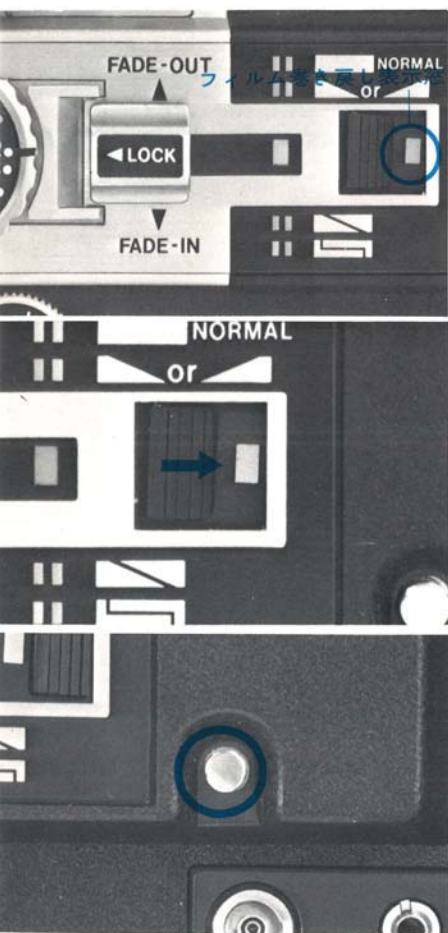
- 左はフェーディング切り換え表示窓、右はフィルム巻き戻し表示窓を表わし、その組み合わせによる撮影技法は次の表のようになります。

撮影技法 \ マーク	フェーディング切り換え表示窓	フィルム巻き戻し表示窓
一般撮影	橙	橙
フェード技法	青	橙
オーバーラップ撮影	青	青
二重露出撮影	橙	青

2 フェーディング切り換え表示窓

- フェーディング切り換えノブを右に動かすとシャッター開角調節リングを手で回すことができます。このときフェーディング切り換え表示窓は青になってリングがフリーになったことがわかります。ロックされた状態では橙色が表示されます。
- ※一般撮影ではシャッター開角調節リングをOにしてリングをロックしてください。撮影中に不用意にリングが回るのを防ぎます。





3 フィルム巻き戻し表示窓

二重露出撮影やオーバーラップ撮影のセット表示です。

- 最初にフェーディング切り換えノブを右にスライドさせ、フィルム巻き戻し切り換えボタンを左に動かして青色を表示すると、巻き戻しの撮影準備がカメラ内部にセットされます。

※シャッター開角調節リングをフリーにしないと（表示窓に青色をセット）巻き戻し切り換えボタンを左に動かすことはできません。

※一度青色を表示すると内部でオーバーラップのプログラムが組まれるため、フィルム巻き戻し切り換えボタンを手で戻すことはできません。

※フィルム装填後に、この操作をするとフィルムが無駄になりますからご注意ください。

4 フィルム巻き戻し解除ボタン

- 巻き戻し撮影を中止したいときや、誤まってフィルム巻き戻し切り換えボタンを巻き戻しにセットした場合にはシャッター開角を0にロックし、このボタンを押してください。

フィルム巻き戻し解除ボタンを押してもフィルム巻き戻し表示窓は青にセットされたままですが、内部の巻き戻し機構は解除されて正転のフィルム送りになります。しばらくシャッターレバーを引いて撮影を続ければフィルム巻き戻し表示窓に橙色が自動的に表示されます。

5 オートフェード撮影 青橙



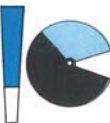
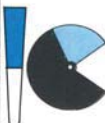
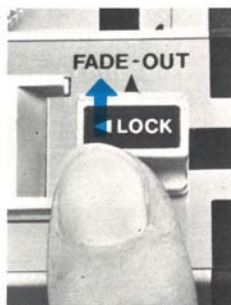
フェード撮影は一般に映画の場面転換、導入、終りをあらわす方法に使われます。

- 画面が徐々に暗くなってゆく効果をフェードアウト、逆に画面が明るくなってゆく効果をフェードインと言い、キヤノンオートズーム1014エレクトロニックでは、オートフェード撮影、手動フェード撮影の両方が電動で出来ます。
- フェーディング切り換えノブを右に動かして表示窓に青をセットし、シャッター開角調節リングをフリーにします。

1 フェードアウト

- シャッターレバーを引ながらフェーディング切り換えノブを指で上に押し、シャッター開角調節リングが自動的にC位置まで回転をはじめフェードアウト撮影が行なわれます。
- フェード撮影状況はファインダー内、右側のシャッター開角量表示窓で確認してください。シャッター開角調節リングが回り始めると徐々に赤くなります。シャッターが閉じると完全に赤くなりフェードアウト撮影が完了したことを告げますからシャッターレバーから指をはなしてください。

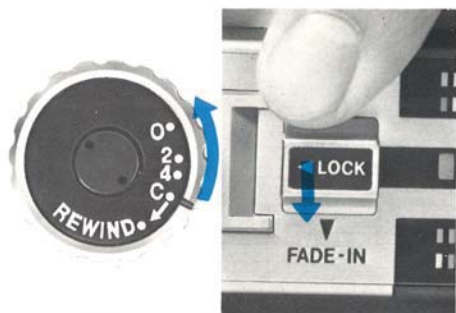
※シャッター開角調節リングが閉じてもシャッターレバーを押すことができますから、フィルムをムダにしないようご注意ください。



2 フェードイン

- フェードアウトにフェードインを続けて行なう場合はシャッターを引きながらフェーディング切り換えノブを下げるとシャッター開角調節リングが自動的に0位置に回転してフェードイン撮影が行なわれます。このときファインダー内のシャッター開角量表示窓の赤は徐々に消えてゆきます。

※フェードイン撮影から始めたい場合は最初にシャッター開角調節リングをフリーにし、シャッター開角調節リングを手動でC位置にしてからフェードイン撮影をしてください。



6 手動フェード撮影

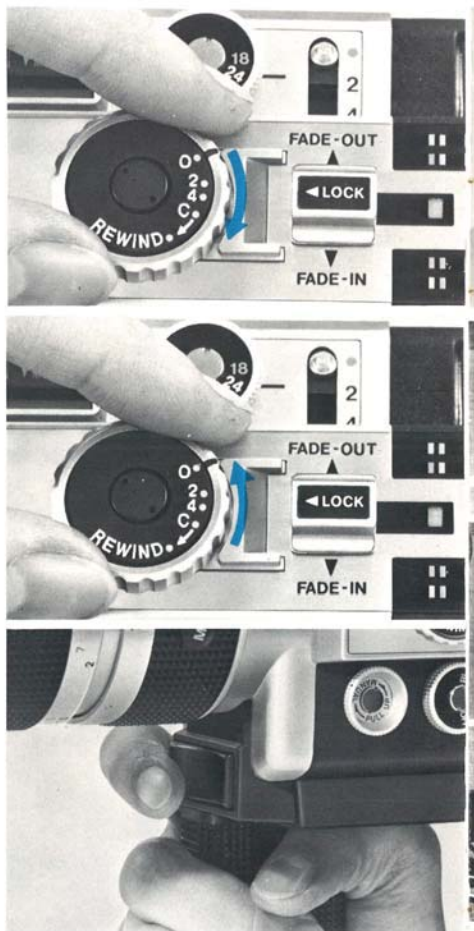
オートフェード撮影は一定量を一定のスピードで行ないませんが、時間をかけて撮影したい場合には手動で撮影してください。

1 フェードアウト撮影

- フェーディング切り換えノブをはずし、フェーディング切り換え表示窓に青色を表示します。
- シャッターレバーを引き、ファインダーのシャッター開角量表示窓を見ながらシャッター開角調節リングを手で回します。

2 フェードイン撮影

- フェーディング切り換えノブをはずし、フェーディング切り換え表示窓に青色を表示します。
- シャッター開角調節リングをあらかじめC位置にセットします。
- シャッター開角調節リングをO側へ回します。このときファインダー内の表示窓の赤は徐々に消えてゆきます。
- そのままシャッターを押し続ければ撮影を中断せずに通常のE E撮影ができます。



フィルム給送ランプ

フィルム送りの確認ランプです。

フィルムが正常に送られていると点滅します。もし、フィルム送りに事故が発生するとランプは消えたままか点灯したままになります。

- オーバーラップや二重露出のときには、フェードアウトを始めると点滅が停止します。巻き戻しが終わってフェードイン撮影になるとふたたび点滅を始めます。もし、ランプが停止したままのときはフェードアウトか、巻き戻しに異常が発生したことを告げます。
- 一般撮影のときに給送ランプが点滅しなくなった場合はフィルム巻き戻し解除ボタンを押してからフィルム送りをしてください。特にオーバーラップや二重露出撮影でどうしても点滅しないときは背蓋をあけてカートリッジを取り出し、フィルム軸を持ってフィルムを10cmぐらい正方向に送ってください。それでもフィルムが動かないときはフィルムを交換してください。

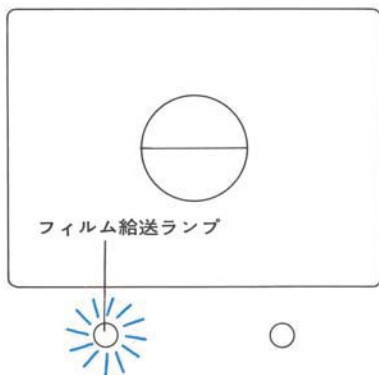
※フィルムを取り出したさいカメラ側は、切り換えボタンが橙色に復帰するまでシャッターレリーズをしてください。そうすればオーバーラップの再セットがすぐにできます。

オーバーラップの再セットのしかた

オーバーラップや二重露出でフェードインに入ってもランプが点滅しないときは、解除ボタンを押してからシャッターレバーを引いてください。シャッター開角調節リングが回転し、リング指標がCからO位置に戻るまでフィルムを送ってください。O位置にくるとシャッター開角切り換えボタンが自動的に切り換わりますからフィルム送りを止め、このあとで再び撮影セットをやり直してください。

※機構上、解除ボタンを押しても直ちに再セットする

1.4 2 2.8 4 5.6 11 32



ことはできません。これは巻き戻し機構が特殊なためとご理解ください。フィルムは送った部分が無駄になります。

二重露出の再セットのしかた

二重露出の場合、巻き戻し後の撮影のときランプがつかないときは、フィルム巻き戻し解除ボタンを押しシャッターレバーを引きフィルム巻き戻し切り換えボタンが解除されるまでフィルム送りをしてください。その後で再びセットしてください。

※オーバーラップや二重露出撮影をするときの注意

スーパー8カメラでのオーバーラップや二重露出撮影は狭いフィルムカートリッジ内でフィルムの送り込みと、巻き戻しを行なうため微妙な条件の変化でトラブルを起します。そのため下記の注意事項を絶対に守ってトラブルをできるだけ避けてください。フィルム給送ランプはフェードアウトで点滅を止めフェードインでふたたび点滅をはじめます。

- 撮影コマスピードは18コマと24コマ以外使用しないでください。
- フィルムの巻き戻しは撮影後すぐに巻き戻す。長時間放置すると、フィルムに巻きぐせがついて事故が生じ易くなります。
- フィルムの最初と最後の各5ftは、カートリッジの構造上巻き戻せませんので、オーバーラップ撮影はしないでください。フィルムカウンターの青線の範囲内で行なってください。

フィルムベースの固いものはフィルムが折れ易く、また、パーフォレーションが破れ易いためオーバーラップ撮影をしないでください。

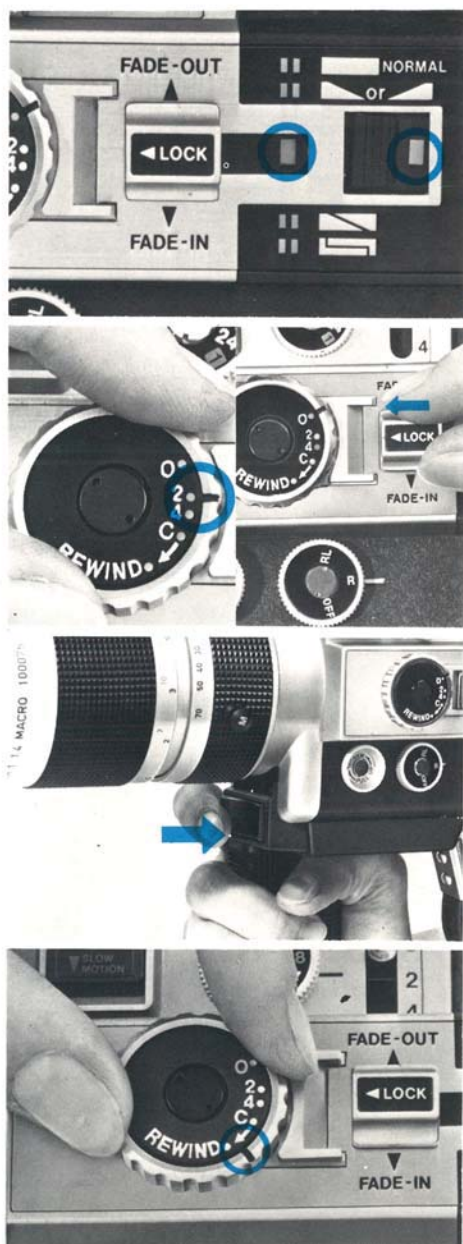
橙青

8 二重露出

オーバーラップ撮影からフェードイン、フェードアウト撮影をはぶいたものを二重露出といい、一般にタイトル撮影などに利用されます。

- 最初にシャッター開角調節リングをフリーにして、次にフィルム巻き戻し切り換えボタンを動かして青マークをセットします。
- シャッター開角調節リングを2に合わせ、固定します。
- フィルムが自動的に止まるまでシャッターを押し続けます。
- フィルム駆動が止まったならば、フェーディング切り換えノブを右に動かし、シャッター開角調節リングをフリーにして、リングを回して指標をREWIND位置に合わせて完全にフィルムを巻き戻します。
- ふたたびシャッター開角調節リングを2目盛位置に戻し、シャッター開角調節リングをロックして撮影を続けると、オーバーラップ切り換えボタンが自動的に橙色に切りかわって、二重露出撮影が終了します。一般撮影を続けて行なう場合はシャッター開角調節リングを0位置にしてください。

※この二重露出の方法は一般に使われているテクニックを例にとりて説明しました。この他タイトル撮影などでは最初に適正露出撮影を行ない、次に黒バックに文字を書き込んだもの撮す方法がとられます。



※フィルム巻き戻し機構の解除

巻き戻し切り換えボタンを不用意にセットした場合や途中で解除する場合は次の様にしてください。

1 オーバーラップにセットし、シャッターレバーを引く前に解除する場合

- フィルム巻き戻し解除ボタンを押します。
 - フェーディング切り換えノブを左に動かし、シャッター開角調節リングを固定します。
- 以上の操作によって一般撮影になります。

2 オーバーラップのセットをし、シャッターレバーを引いたあとで一般撮影に戻す場合

- フィルム巻き戻し解除ボタンを押します。
- シャッター開角調節リングがC位置にくるまでシャッターレバーを押します。
- シャッター開角調節リングをOまで指で戻します。
- フェーディング切り換えノブを左に押しシャッター開角調節リングを固定します。

※二重露出撮影の場合はフィルム巻き戻し解除ボタンを押し込むと一般撮影になります。

シャッターレリーズの方法

1 ランニングロック

連続撮影のロックです。切り換えスイッチをRLにセットし、シャッターレバーを押し込むとシャッターレバーはロックされ、押し放しの状態となり、指を離しても撮影が続けられます。

解除するには切り換えスイッチをRに戻します。



2 リモートコントロール

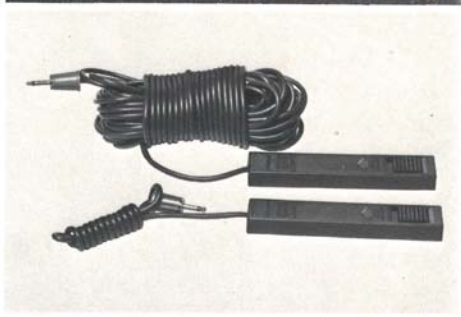
付属のリモートスイッチ60またはリモートスイッチ3を用いて行なう遠隔操作で、EE撮影が可能です。*カメラとリモートスイッチの間にエクステンションコードE1000(10m)の接続が可能です。また、E1000は相当数接続できますから遠距離からの撮影に便利です。

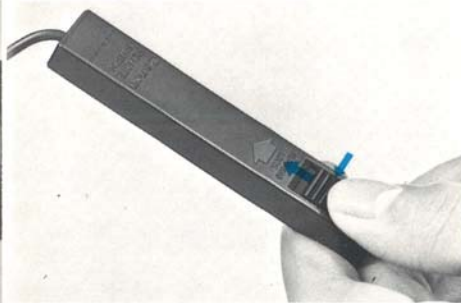
(リモートスイッチ60のコードの長さは60cmで、一般撮影あるいは、1コマのブレ防止用、リモートスイッチ3は、コードの長さは8mです。)

1 とりつけ方

カメラの切り換えスイッチをOFFにしておき、ソケットカバーC-8をはずしリモートスイッチのプラグをカメラのリモコンソケットにさし込みます。

切り換えスイッチをRLにセットし、シャッターレバーを押し込み、ランニングロックと同じ状態にします。この場合、シャッターレバーを押し込んだままスイッチを切り換えてもさしつかえありません。





2 撮影操作

リモートスイッチのスイッチボタンを押し下げると駆動が始まり、さらにボタンを矢印方向にスライドさせるとランニングロックになり、ボタンから手を離しても撮影が続きます。

手動絞りでリモート撮影する場合は、あらかじめファインダーで適正絞りを読み取ってから、E—手動絞り、切り換えリングを引き出して手動絞りとし、読みとった絞り値をセットします

3 はずし方

リモートスイッチをカメラから取りはずすときは、必ずカメラの切り換えスイッチをRまたはOFFに戻してから行ないます。もしRまたは、OFFに戻さずに取りはずすと、シャッターが作動してフィルムが無駄に送られてしまいますから、取りはずしの順序を間違えないように注意してください。

- リモートコントロール撮影をしないときは、カメラの切り換えスイッチを必ずOFFにしてください。電池の消耗を防ぎます。
したがって撮影の準備は直前に行なってください。
- 遠隔操作をする場合には、カメラから離れて撮影する関係上、あらかじめ被写体の状況を確認しておく必要があります。

3 1コマ撮影

キヤノンオートズーム1014エレクトロニクでは、マグネットリリース方式を採用しているため、1コマ撮影でも完全E E撮影ができます。

- コマスピードダイヤルを1コマにセットし、リモートスイッチ3または60をリモコンソケットにさし込み、切り換えスイッチをRLに合わせ、リモートスイッチ先端のボタンを押して撮影を行ないます。

※切り換えスイッチをRLにセットしないと適正露出は得られません。

4 セルフタイマー-E

カメラ側スイッチをランニング(RL)状態にして、リモコンソケットにアクセサリーのセルフタイマーをさし込んで行なう無人撮影装置で、撮影者自身も画面に写ることができます。

中央の始動ボタンを押すことによって約10秒後に約10秒間の撮影ができます。(4,500円)

5 インターバルタイマー-E

切り換えスイッチをRLにしてリモコンソケットにさしこみ、一定の時間間隔をおいて1コマ撮影をする電子タイマーです。時間調節はタイマー中央のダイヤルによって行ない、1秒から60秒までの時間調節ができます。

インターバルタイマー-Eはストロボ撮影にも同調します。(4,500円)



CCAフィルターの切り換えと人工光撮影

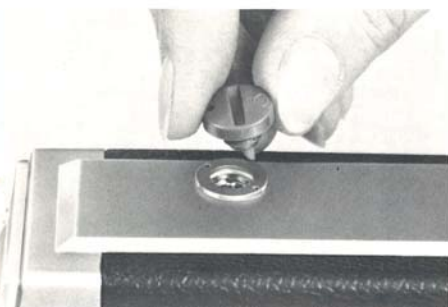
スーパー8カメラはタングスタイプ(人工光用)のカラーフィルムを使用して、太陽光やブルーランプなどを光源とする昼光撮影を行なうために、レンズ系の撮影光路内に色温度変換用のC.C.Aフィルターを内蔵しています。

そのため、人工光撮影をする場合フィルターを外部から解除できるようになっています。解除のしかたは、カメラ底面に収納されているC.C.Aフィルター切り換えアダプターをカメラ上部のC.C.Aフィルター切り換えアダプターソケットに取り付けるか、三脚ねじの取り付け足をもつライティングユニットをねじ付けます。

※ライティングユニットの取り付けは本体との間に付属のすべり止め用ゴムマットをはさんで確実に行ってください。強力なライティングユニットは、高熱が発生し、被写体によっては燃えることがありますから、1m以上近づけないでください。また、ライティングユニットのコードを、ふみつけるとライトが倒れ、顔などにあたり、思わぬケガをすることがあります。事故をふせぐためコードをグリップと一っしょいにもつようにしてください。

※マクロ撮影では、危険ですからライティングユニットは使用しないでください。フラッドランプを2個使用してください。

※C.C.Aフィルター切り換えソケットはタイトル撮影などをするとき三脚穴として使用しないでください。デイルイトタイプのフィルムを入れた場合は、フィルターは自動解除されます。



マクロ撮影

1 マクロ撮影

オートズーム1014エレクトロニクには超近接撮影機構が組み込まれており、アクセサリーを使用せずに極近撮影ができます。

小さな動植物や昆虫等の撮影、タイトル撮影等にご利用ください。

- ズーム速度切り換えスイッチをMにセットします。
- ズームリングは、焦点距離7mmに回すと、回転できませんが、この状態でズームレバーの先端のマクロセットレバーを引きながら、ズームリングを回すと、MACRO位置にセットできます。ファインダーを覗き、ピントを合わせます。そのさいフォーカシングリングではピントが合わせられないため、ズームリングをMACROの範囲内(黄線)で回して合わせてください。

マクロ撮影ではカメラブレが目立ちやすいため、コピースタンドまたは三脚を使用して支持を確実にし、リモートスイッチ60を用いてリモコンレリーズ撮影をされるようにおすすめします。

※アイピースシャッターの利用

カメラから目を離して撮影するとき、光がファインダーから入り、フィルムにゴーストが出るおそれがありますので、アイピースシャッターをC位置に動かして光が入らないようにしてください。

∞位置でフィルム位置マークから189mmまで近接でき(レンズ先端から10mm)被写体サイズ30.5mm×22.8mmが撮影できます。

近接撮影は被写界深度が極端に浅いため、ピント合わせは慎重、確実にし、F5.6以上の小絞りを使えるよう照明は明るいものを使ってください。





2 マクロ撮影のピント合わせ

マクロ撮影のピント合わせは、フォーカシングリングを使用しません。

ズーミングリングをマクロ範囲内(黄線の範囲)で回して行ないます。また、ズーミングリングを回すと、ピントの合う範囲が、マクロ至近距離からフォーカシングリング上にセットした距離目盛範囲内で移動します。

距離目盛を 3 m に合わせてズーミングリングを回すとマクロ至近距離から 3 m の範囲内でピントの合う位置が変わってゆきます。さらにズーミングをするとマクロ機構がはずれ、3 m にピントが合います。そのままズーミングを続けると 3 m の被写体がズームアップされます。

もしフォーカシングリングの距離目盛を ∞ にセットしておくと、マクロから ∞ 遠までの距離でピントの合う位置が変化し、マクロがはずれて 7 mm からはズーミングに切り換わります。

この性質を利用すると近距離の被写体から別の被写体に合わせかえ、さらにその被写体をズームアップでき、被写体の関連、イメージチェンジなどの場面に利用すると効果があり、単なるズーミングとは違った面白さが出せます。逆に望遠からマクロへは連続撮影はできません。

絞り	被写界深度	絞り	被写界深度
1.4	188~190	8	185~193
2	188~190	11	184~195
2.8	188~191	16	182~198
4	187~191	22	180~201
5.6	186~192	32	177~211

(単位ミリ)

フィルム位置マークから 189mm における被写界深度表

ストロボ撮影

このカメラにはフラッシュシンクロソケットが組み込まれていますから、1コマ撮影でタイトルやアニメーションを写す場合には、ストロボ同調撮影ができます。

撮影は手動絞りで行ない、一般のストロボ撮影同様に、ガイドナンバー÷撮影距離で絞り値を算出します。ガイドナンバーは、使用スピードライトの説明書、または本体の計算盤にしたがってきめます。ガイドナンバーと撮影距離は同一単位とし、フィートとメートルを混同しないでください。

- シャッター開角は0にセットします。これ以外では同調しません。シャッタースピードとしては、約 $\frac{1}{60}$ ですが、実際の露出はスピードライトの閃光時間になります。

なおストロボ撮影の場合、1枚で鑑賞するスチール写真と異なり、全コマに安定した露出を与えないと映写画面がチラつくことになりますから、露出の決め方に注意してください。

そのため、電圧安定回路を組み込んだスピードライトを用いた方が良い結果が得られます。安定回路のないストロボの場合には、パイロットランプ点灯直後に露光することを前提としてストロボ性能に応じて、絞りを1段、もしくは、半絞り開いて撮影するかAC電源を使用してください。

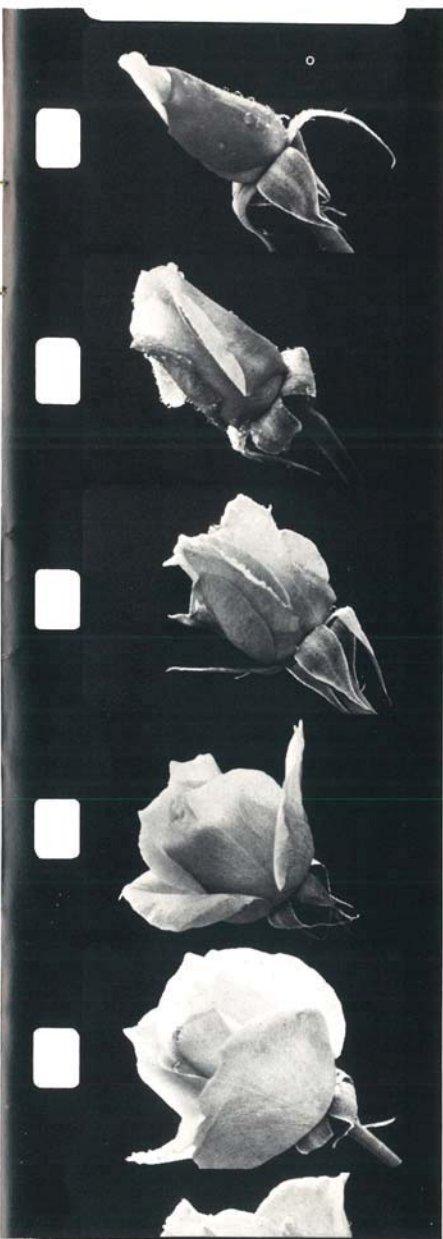
- ※ストロボの放電管寿命は、5,000回程度といわれています。(フィルム約1.5本) 1コマ撮影を多く撮影する場合はこの点に留意ください。

時間制御間欠撮影

時間制御間欠撮影は、長時間にわたって一定間隔において被写体の変化を記録撮影する場合に利用される方法です。たとえば蝶や、せみなどの成長記録や仕事の標準化を計るための作業分析などです。キャノンオートズーム1014エレクトロニクには、この撮影を無人でコントロールするタイマーを開発しました。この撮影はランニングロックを利用し、タイマーをリモコンソケットにさし込んで行ないます。タイマーには短時間用インターバルタイマーEと、長時間用タイムラプスプログラマー(予定)の2種類が用意されます。

1 メモーション撮影

一定時間において1コマ撮影を連続させる方法で撮影時間の間隔により、映写した場合の被写体の動きを遅くしたり速くしたりすることができます。インターバルタイマーEを使用すれば1分までの間で自由に時間調節ができます。



画面効果を高める撮影テクニック

1 ズーミングについて

ズーム効果は画面効果として面白いものですが、映写中これが数多く現われるとかえってわずらわしく、観賞上マイナスになる場合を生じます。また、レンズの長焦点部分は、普通の超望遠レンズの場合と同様にわずかのブレも画面に大きく影響しますから、ズーム撮影に当ってはブレを防ぐためにぜひ三脚とリモートスイッチ60かりリモートスイッチ3をご用意ください。

1 まず確かめること

ズームは、どういうときに行なったら一番効果的か、シャッターを押す前に一度ズームをして確かめてください。主被写体をアップして、映画を見る人にズーム効果を楽しませるときや、望遠から広角へ画面を変換し、その広がりを見せよう

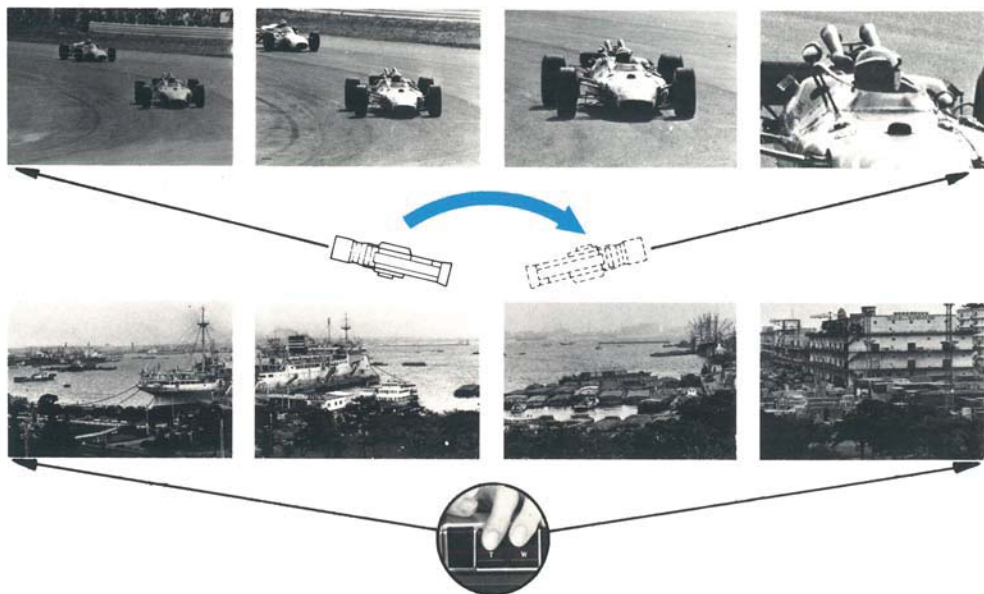
とするときには、シャッター以前に画面の構成を決めておくことをおすすめします。

2 ズーミング速度を変えて撮影

手動ズームは全体のズーム時間を短縮したり、著しく遅くしたりすることができます。たとえばゆっくりズームすると、像倍率の変化を意識せずにズームでき、逆に、急激に最大最小にズーム速度を変えたいとか、一定の倍率位置を保ちたいときには、手動ズームにより好きな焦点距離を選ぶことができます。

3 移動撮影的效果もズームングで

被写体と一定間隔を保ちながら追って行く移動撮影効果も、カメラを固定したままのズームで表現できます。たとえば歩み寄る人物の動きに合わせて倍率を一定に保つように静かにズームすると、人物の



大きさが変わらず周囲の情景が画面内で変化する効果です。

4 わずかにズーミング

ズーミングアップを最大倍率まで行わず、希望する画面になったら途中で止めて撮影する方法も、効果のある使い方です。また途中で止めてしばらく撮影した後、ふたたびズーミングを始め、被写体の動きを最大にズームアップして1カットに収めるのもより変化を与える方法です。

2 パンニング撮影

山頂での広い風景、室内の全景などを1カットに収める技法です。

カメラを一定位置から順次横に回しながら連続的に撮影します。三脚を使って安定させ、急激な移動や上下動を与えないことが大切です。

手持ち撮影では、両足を開き加減にして立ち、腰から下は動かさないようにして、上体だけを回します。とかく移動が早くなりがちなので、高速コマを使用すると便利です。

重要な場面に少し時間をかけてしめくくると、パンニング速度を一定にすること、あまり広いパンニングは避けることなどが、この技法に上達する近道です。

またズーミングを併用することも興味を盛上げる手段となりましょう。

3 ティルティング技法

パンニングはカメラを左右に回して撮影する技法ですが、上下にパンニングした場合にはティルティング技法と呼ばれています。上から下へ撮影するのがティルトダウン、下から始めるのがティルトアップです。

4 タイトル撮影

キヤノンオートズーム1014エレクトロニクでは、マクロ機構によって、接写、複写が簡単にできますからタイトル撮影にご利用ください。またアニメ撮影や、1コマ撮影を利用すると楽しいタイトルができます。現像されたフィルムをスプライス（接合）しただけで映写するのでは折角のストーリーも味気なくなります。撮影の目的を明瞭にし、見る人にも楽しさを与え、また、内容を理解してもらうためにもタイトルは必要です。

タイトルにも内容をまず知らせるためのメインタイトル、一見して制作者がわかるクレジットタイトル、内容を文字で補足的に説明するスポークンタイトル、終りのしめくくりをつけるエンドタイトルなど色々ありますが、少なくともメインタイトルとエンドタイトルはつけるようにしましょう。クレジットタイトルは制作者のマークなり、プロダクトイニシアなどを決めて、メインタイトルの中へ写し込んで代用することもできます。

色々アイデアを生かした楽しいタイトルをつけるようにご研究ください。

タイトル撮影には、コピースタンド4を使用すると便利です。接写、拡大、複写にもご利用ください。(¥11,000)

アクセサリーの使い方

1 クローズアップレンズ (8ミリ専用)

キヤノンオートズーム1014エレクトロニクは、パララックスのない一眼レフ式ファインダーをもち、クローズアップ撮影も、見たそのままが写せます。

色収差補正の完璧な8ミリ専用のクローズアップレンズを、レンズ先端にネジ込むだけで、タイトル撮影、文献の複写、草花、昆虫などの撮影に威力を発揮します。

被写体から離れてクローズアップができるので、特に動きの速い小動物撮影などに便利です。

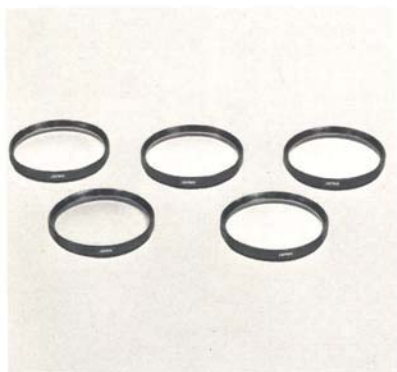
距離調節もしやすく、タイトル撮影などには、照明がとり入れやすい距離を選べるので便利です。

58ミリクローズアップレンズ450C-8-2 価格 5,500円

58ミリクローズアップレンズ240C-8 価格 5,500円

※名称の58ミリは直径で、450、240はレンズ距離目盛を ∞ 遠に合わせたとき、レンズ先端から450mm、240mm、離れた被写体にピントが合うことを意味します。





2 フィルター

キヤノンオートズーム1014エレクトロニクの露出は、レンズを通過した光を測る TTL方式です。そのためフィルターをつけても、露出倍数補正の必要がありません。フィルターは撮影目的に応じて使用してください。大きさは58ミリを使用し、レンズ先端にネジ込んで使用します。

Y 1(淡黄) Y 3(黄) O 1(橙) G 1(緑) R 1(赤) UV CCA 4 CCA 8 CCB 4 CCB 8
スカイライト ND 4 ND 8 価格 各 1,600円

種 類	フ イ ル タ ー 効 果
UV (SL 39.3C) 黒白, カラー共用	<ul style="list-style-type: none"> 紫外線だけを吸収し、各色光には無影響です。海浜、高山などの紫外線の多い所では特に有効です。カラー撮影の常用フィルターとしてもおすすめします。
Y 1 (SY 44・2C)	<ul style="list-style-type: none"> 黒白フィルムに利用して写すもののコントラストを強めます。海の色を整えたり、青空をおさえて白雲を浮き出させます。赤や黄色は多少明るくなります。 赤が極端に白くなるのを防ぎ、空や顔を適当な明るさの調子にし、新緑などの明るさもそのまま表現します。 青色はかなり暗く、黄や赤が見た目より大分明るくなります。コントラストを強調し遠景には特に有利です。
Y 3 (SY 50・2C)	
G 1 (MG 55C)	
O 1 (SO 56・2C)	
R 1 (SR 60・2C) 黒白, 赤外共用	<ul style="list-style-type: none"> コントラストを強調し、場合によっては白昼の調子も夜景に近くなります。赤外フィルムに併用するフィルムターでもあります。
ND 4, ND 8 黒白カラー共用	<ul style="list-style-type: none"> ND 4は1/4, ND 8は1/8に光量を減じます。カラーの色再現性には全く影響がありません。
スカイライト (SKY)	<ul style="list-style-type: none"> 青空や木陰の色を自然に近づける作用をします。 デイルイトタイプの曇天, 雨天, 日陰用。 ユニバーサルタイプの曇天用, タングステンタイプの朝夕用。 デイルイトタイプの朝夕用。 デイルイトタイプの人工光フラッシュ用。
CCA 4	
CCA 8	
CCB 4	
CCB 8	

日中映写卓上プロジェクター キャノンビジョン8-2

明るい場所でも見ることのできるテレビ型8ミリ映写機です。

特殊反射防止画面を採用しているため、斜めからも見ることができ、レバーの切り換えで、スーパー8シングル8、レギュラー8の3種のフィルムが映写できます。1コマ映写も新たに加わり、フィルムはさし込み口に入れるだけのオートローディング機構です。

キャノンレンズ11mm F2.5,

スペアランプ100V 150W付 価格 23,000円

完全自動万能型プロジェクター キャノンシネスターS-400

フィルム装填から巻き戻しまで完全自動化。8コマ/秒のスローモーション映写の組み込み、400ftリールなど、使いやすさと、楽しさを増したプロジェクターです。スーパー8、シングル8、レギュラー8の3種のフィルムが使用できます。

P S 17~28mm F1.3 ズームレンズ付

映写電球 8 V 50W付 価格 34,000円

高級ファンのための、

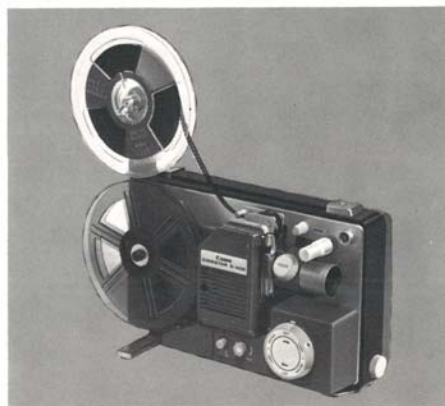
キャノンシネプロジェクターT-1

性能、操作性、耐久性について、あらゆる角度から検討を加えて新設計した、最高級8ミリプロジェクターです。

F1.0という大口径新鋭ズームレンズの開発、2段式スローモーション パルス同期式テープトーカー映写に加え、FTS同期映写などをはじめ停止映写、逆転映写などの機能を備えた万能型です。

P S 17~28mm F1.0ズームレンズ付

映写電球 21V 150W コールドミラー付ハロゲンランプ 価格 88,000円



ご注意

手入れ

フィルムゲートは、よく手入れをしておくこと。フィルムゲートには、フィルムのカスや塵などがたまりやすく、故障やフィルムを傷つける原因になります。ときどき柔らかいブラシやブロワーを使って掃除してください。固く付着した場合は、つま楊枝程度のもので取りのぞきます。金属など硬いものはさけてください。

カメラをしまっておくには

ケースからはずし、湿気やほこりのないところにしまってください。樟脳やナフタリンなどをそばにおかないようご注意ください。また電池類は抜いておきましょう。カメラは長い間しまい込んでおくよりも、むしろしばしば使用している方が無難です。レンズには手をふれないこと。ごみはブロワーで吹き飛ばすか、刷毛で払

う程度にとどめておいてください。指紋などをつけた場合には、シリコンクロスで軽く拭きとってください。強く拭くとレンズをいためるおそれがあります。

カメラを海中に落とすと

ほとんど修理不能になります。落とさぬよう気をつけてください。万一落とした場合には、サービスステーションにご相談ください。

安全ロック

カメラをケースに収納するようなときには、必ず切換えスイッチをOFFにしておきましょう。

高温の場所では

カメラは高温の場所に放置しないで下さい。車のリアウィンドーやトランクの中は60℃以上になることがありますから、特にご注意ください。

万一の紛失や盗難などの不慮事に備えてボディ番号、および購入店名、購入月日などを記入しておきましょう。

品名：キヤノンオートズーム1014エレクトロニク

ボディ番号：

購入店名：

住所：

購入年月日：

氏名：

住所：

キヤノン株式会社 キヤノン販売株式会社

東京都品川区東五反田 1-13-12 〒141 ☎(03) 449-2111

東京営業部	・(141)	東京都品川区東五反田 1-13-12	(03) 449-2111
〃千葉分室	・(280)	千葉県千葉港 4-3 (千葉県私学会館4階)	(0472) 43-9624
大阪営業部	・(541)	大阪市東区瓦町 5-39 (大阪化機会館3階)	(06) 202-6761
〃京都分室	・(600)	京都市下京区四桑通東洞院角 (富国生命ビル4階)	(075) 211-1388
〃全沢分室	・(920)	全沢市高岡町 2-37 (不銀ビル5階)	(0762) 63-0238
サービスステーション			
銀座	・(104)	東京都中央区銀座 5-9-9	(03) 572-4251
大阪	・(530)	大阪市北区梅田 2 (第一生命ビル2階)	(06) 341-9335
名古屋	・(450)	名古屋市中村区堀内町 4-1 (毎日会館2階)	(052) 581-3811
営業所・サービスステーション			
札幌	・(060)	札幌市中央区北三条西 4-1 (第一生命ビル4階)	(011) 231-1313
仙台	・(980)	仙台市一番町 1-1-30 (やまと生命仙台ビル6階)	(0222) 66-4151-7
新潟	・(950)	新潟市東区大通 1-4-1 (マルタケビル7階)	(0252) 46-0131-3
横浜	・(231)	横浜市中区南仲通り 4-39 (石橋ビル1階)	(045) 201-2176
静岡	・(420)	静岡市鷹匠 2-7-2 (静米会館1階)	(0542) 55-2241
名古屋	・(466)	名古屋市昭和区阿由知通 4-13 (朝日生命ビル6階)	(052) 851-4551
岡山	・(700)	岡山市平和町 4-7	(0862) 22-8228
広島	・(730)	広島市小町 2-30 (第二有楽ビル4階)	(0822) 44-4615
福岡	・(812)	福岡市博多区博多駅前 4-20-23 (セントラルビル1階)	(092) 41-4172